

1. 評価報告概要表

作成日 平成 22年 2月26日

【評価実施概要】

事業所番号	1070800238
法人名	特定非営利活動法人ひまわり会
事業所名	グループホーム一番星渋川
所在地	渋川市行幸田532-1 (電話) 0279-60-7650

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成22年2月26日

【情報提供票より】(平成22年2月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年3月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12	常勤 5人, 非常勤 7人, 常勤換算	7.35人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	その他9,000円/月(300円/日)	
敷金	有(200,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	1日 円			

(4) 利用者の概要(2月15日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	0名	要介護2	0名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	6名	要支援2	0名		
年齢	平均	最低	66歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大谷内科クリニック
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは榛名山麓の田畑が広がるなかに立地し、近くにはスーパーマーケット・レストラン等のお店がある。建物は古民家を改築しており、玄関入ると居間兼食堂・キッチンと一般家庭の間取りとなっている。入居者は開設以来の方が多く、手拍子で歌を歌ったり、日々居間や居室でゆったりと過ごされている。また、天気の良い日は花の水遣りをしたり、散歩をしたり、ベランダや縁側で外気浴をする等一人ひとりの日常生活を過ごしている。ホームでは本人・家族の希望を大切に、終末期の介護について家族・医師・ホームで話し合い方針を共有し、看取りの介護を実践している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年の外部評価結果は会議で報告し、家族からの意見も運営に反映し、重度化や終末期については看取りのマニュアルや介護同意書等の作成に取り組んでいる。また、玄関に鍵を掛ないように取り組んでいる。その他、地域密着型サービスとしての理念の見直し、介護計画の作成及び見直し、職員と入居者が一緒に食事をする事については引き続き検討中である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者・全職員は評価の意義を理解して、会議やカンファレンス等で話し合いをして、管理者が自己評価をまとめている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、入居の状況、行事運営、地域の情報、地域包括支援センターの情報、インフルエンザ等の議題で話し合い、家族からレクリエーション等で関わりを多く持つて欲しいなどの意見があり運営に反映させている。また、認知症についての相談を受けてホーム長が資料を作成し、地域のいきいきサロンで配布され活用されている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホーム内及び公的機関等の苦情相談受付窓口は重要事項説明書類に明記し、入居時に本人・家族に説明している。また、意見や要望、苦情等については家族の面会時に引き出せるよう働きかけを行い、それらを検討しサービスに反映をさせている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>入居者は天気の良い日は近隣を散歩し、道で会う地域の方に挨拶をしたり、隣りの家を訪問したりしている。また、近隣の方が時々野菜を届けてくれる。ギターや大正琴の演奏にボランティアが見えたり、介護やヘルパーの実習生を受け入れる等地域の方との交流に努めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成14年開設以来、「昔ながらの古民家で四季のうつろいを感じ、人との触れあいを大切にしながら、過して頂けるように」の願いを持って支援しているが、地域密着型サービスとしての役割を反映した理念の見直しがされていない。	○	管理者、全職員で地域密着型サービスとしての理念を検討されるよう期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、職員に介護者としての姿勢を説き、理念を伝えている。理念に沿って、生まれ育った家のような環境で、入居者が一緒に食事作りや洗濯・掃除等の役割を持って、元気に生活をされるよう支援に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の新年会に出席したり、老人会に招待されている。入居者は散歩の途中で近隣の方と挨拶を交わしたり、近隣の方が野菜を届けてくれる。また、介護やホームヘルパーの実習生の受け入れをしたり、ギターや大正琴のボランティアが訪れる等地域の方と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、全職員は、自己評価についてカンファレンス及び会議の折に話し合い、管理者がまとめている。昨年の評価結果はファイルし家族に見て頂き、重度化や終末期の介護についてはマニュアル及び看取り介護の同意書を作成したり、鍵を掛けないケアについては玄関の鍵を掛けず見守りを徹底したケアの実践に取り組んでいる。他の項目は、検討中である。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、入居状況、行事運営、地域包括支援センターや地域の情報、インフルエンザ対策、評価結果報告、虐待問題等を議題に話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かし、地域の祭りに参加を勧められる等会議を活かした取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	空き状況や事故等の報告をして、行政担当者、社会福祉協議会、地域包括支援センター等と情報交換をしている。また、権利擁護利用について相談してサービスの向上に取り組んだり、地域の老人会から認知症ケアの講習会の講師を依頼されたりしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会にくる家族には、介護記録を提示して暮らしぶりや健康状態を伝えている。急な変化の場合は、携帯電話のメールで文書や写真を添付して報告している。金銭については預かっていないが、家族の了解を得て千円単位のお金を持つ方もいる。必要時はホームで立替え、領収書を提示して家族等に支払って頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談受付窓口は入居時に説明し、重要事項説明書に明記し、玄関脇の壁に掲示している。面会時には、意見や要望等について引き出せるよう働きかけをしている。意見があれば検討し、運営に反映をさせている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の職員異動はしておらず、入居者とのコミュニケーションを大切にしている。職員を指導する際には必ずフォローしてストレスを抱え込まないよう細かい配慮をしたり、希望等を入れて勤務調整して、離職等を抑える努力をしている。代わる場合は、入居者や家族に挨拶し、入居者に早く馴染めるように指導をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県主催の実践・リーダー研修、認知症のケアについての講習会に出席して報告書を作成し、会議の折に報告している。報告書はファイルし、閲覧できるようになっている。ホーム内の勉強会はホーム長が中心となり、開催している。新入職員には管理者・主任がスーパーバイザーとなり、働きながらトレーニングしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、研修会や会議の折に同業者との交流を行ったり、職員は他のホームとの相互訪問をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族にホームに来て頂き雰囲気を知ってもらったり、管理者や職員が本人が利用するデイサービスまで出かけて顔馴染みになったり、情報を得たりしている。また、家庭に出向き、家族から生活の様子等を聞いて馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の唱歌や歌謡曲等を教えてもらい一緒に歌ったり、入居者の戦争体験の話の聞いたり、洗濯物の干し方・味付けや野菜の刻み方等の生活文化について聞いたり、オセロ・習字・塗り絵・折り紙等を一緒に楽しみ、支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(言葉により) 意思表示をする方が少なく、手拍子をするしぐさで歌いたいとの意志の表現とわかり一緒に歌ったりしている。困難な場合は、家族と相談したりして検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の面会時に希望や要望を聞き、毎日のカンファレンスで話し合い、月1回のケア会議で検討し介護計画を作成している。介護計画は、家族の了承を得ている。	○	介護計画の目標については、社会及び心理と身体の両面からのプランを計画されるよう期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間は12ヶ月となっており、期間毎に見直し、急な変化についてはカンファレンスで話し合いをして、随時見直しをしている。	○	モニタリング、アセスメント等を毎月実施して、心身の状態の変化により計画の見直しを行い、介護記録に記載する用紙の様式の検討を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自宅への外泊や外出の送迎、墓参りへの同行をしたりしている。状況により家族にホームへ泊まって頂く等、柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人・家族にかかりつけ医の希望を聞き、殆どの方が協力医へ変更をしている。協力医は月2回の往診に見え、他の科の受診は家族の都合により職員が同行している。また、歯科も往診してもらったり、訪問看護ステーションと連携したりして、適切な医療をうけられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、ホームで出来得る介護を説明し、「方針として最後まで看させてもらいます」と伝えている。過去に看取りをしてきており、マニュアルを作成し、看取り介護についての同意書を家族に書いて頂き、家族の希望を大切にして、家族・医師・ホームで話し合いをして方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳を大切に、誇りを傷つけないように言葉や対応に配慮している。また、職員は個人情報の秘密保持を遵守している。記録類は事務所に保管しているが、居間のボックスに日勤簿が置かれている。	○	居間に置かれた書類の保管方法や保管場所の検討を期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事を自分のペースでゆっくり食べたり、好きなテレビの歌番組を遅くまで観たり、その人のペースで過ごせるよう支援している。また、お茶の時間に希望を聞きコーヒーが飲みたい方には飲んで頂いたり、オセロや音楽など本人の希望に添って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は声をかけながら、食事介助をしている。職員は同じ時間に食事が出来ないが、同じ食事を食べている。時々、おやつ作りを行い一緒に食べて楽しんでいる。	○	今後も引き続き食事を楽しめるように、時には一緒に食べたりしながら過ごす機会の検討を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、午後から夕方の時間にマンツーマンで支援している。週4～5日の方、週2日の方と状況や希望にあわせて支援している。拒否する方にはタイミングをずらしたり、翌日への変更をしたり、更衣で対応する場合もある。また、入浴剤を使用したり、柚子湯を行ったり、会話しながらゆっくりと湯舟につかる等入浴を楽しんで頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たみ、花の水遣り、草刈り、はたきでの掃除等をして頂く入居者に、職員は感謝の言葉を伝えている。ギターや大正琴の演奏を聞いたり、映画の好きな方は夜遅くまでDVDを見たり、外食をしたり、楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は一人で近隣を散歩し、立ち話や隣宅を訪問したりしている。近隣のスーパーマーケットや店で買い物したり、食材購入に職員と一緒に出かけている。また、桜や梅見に出かける等の毎月の戸外活動を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者・職員は鍵をかける弊害を理解し、昼間は鍵をかけておらず、入居者は散歩に出かけたり、花に水遣り等をしている。職員は見守り徹底し、入居者の安全を配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の火災訓練は夜間を想定して行い、防災器具会社により入居者も一緒に避難方法・避難経路の確認・消火器の使い方等を行なっている。近隣の方に、災害時の協力を依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、水分量は1350～1500mlを目安にチェックし、1300～1600kcalの食事を提供して、3ヶ月毎に血液検査や体重計測をして変化を見ている。職員は入居者の希望を聞き、献立を立て調理をしている。また、体調に合わせて粥食やトロミ食、便秘の方には野菜を多くした食事を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関から入ると、居間では炬燵にあたりながら観賞できる位置にテレビが置かれ、人形や季節の花がいけられ、習字、塗り絵、ちぎり絵等入居者の作品が壁に架けられている。また、広い縁側にソファが置かれ、庭が眺められるようになっている。生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごされるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた箆笥、仏壇、ラジオ、時計、椅子等が持ち込まれ、塗り絵や家族の写真があり、好みの洋服がハンガーに架けられている。		